

2025 年 10 月 30 日

西日本旅客鉄道株式会社

デジタル技術を活用した踏切安全対策の実証実験について

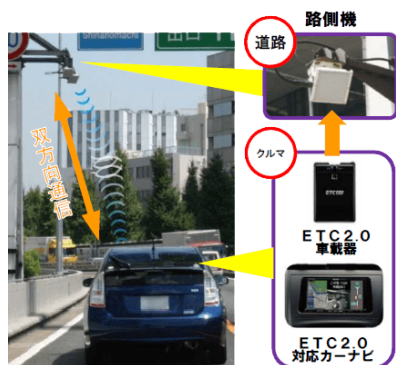
JR 西日本中国統括本部では、広島電鉄と並走する区間の踏切（複数の線路を跨ぐ、兼掌踏切）で度々発生する自動車が踏切内で停滞する事象の解消を目指し、この度、踏切通行時の一旦停止までに「ETC2.0」のデジタル技術を用いた自動車の運転手に注意喚起を促すシステムを開発しました。一般車両を対象とした踏切安全対策での「ETC2.0」の活用は、国内初となります。今後、管内の踏切にて実証実験を行ってまいります。

1. 概要

踏切に「ETC2.0 簡易型路側機」を設置し、「ETC2.0」のシステムを活用することで、踏切の一旦停止前までに、音声等で踏切内での停滞禁止を促す注意喚起が発信されます。

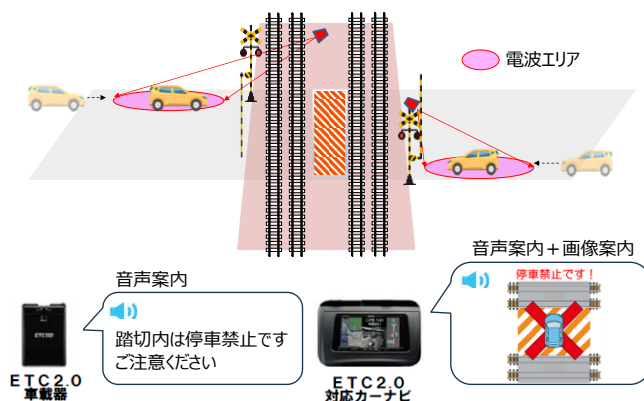
今回の開発・実証実験にあたり、特定非営利活動法人 ITS Japan、(株)トヨタシステムズ、一般財団法人 道路新産業開発機構、広島電鉄(株)、広島県警察本部のご協力のもと実施に至っています。

【「ETC2.0」の仕組み】



ETC 総合ポータルサイトより転載

【イメージ図】



2. 実証実験について

- (1) 期間：2025 年 12 月上旬～2026 年 3 月末日（予定）
- (2) 場所：山陽本線五日市駅構内 蟹原第 2 踏切 ※住所：広島県広島市佐伯区藤垂園
- (3) 内容：期間中、「ETC2.0」搭載の自動車が当該踏切付近の通信エリアに進入する際、音声等で踏切内での停滞禁止を促す注意喚起が発信されます。

今回ご案内の取り組みは、SDGs の 17 のゴールのうち、特に 9 番、11 番に貢献するものと考えています。



JR西日本グループは持続可能な開発目標（SDGs）を支援しています。

